

月に他の天体が隠される天文現象を「掩蔽（えんぺい）」といいます。月（新月）に太陽がかくされる「日食」も広い意味では掩蔽の一種です。黄道（天球上の太陽の通り道）や白道（天球上の月の通り道）に近い恒星、つまり星占いに登場する「黄道十二星座」にある恒星は、時々月に隠されます。これを「恒星食」といいます。今年の12月25日には「おとめ座のスピカ」が月に隠される恒星食が起きます。太陽系惑星も黄道や白道に近い軌道なので、時々月に隠されますが、ヒトの一生から見るとかなり稀な現象です。その一つの「土星食」が今夜見られました。

地球から見て土星が月に隠されるということは、地球・月・土星がほぼ一直線に並んだことを意味します。しかし土星は非常に遠いので、地球上どこでも食が見られるわけではなく、今回は関東地方を中心に見られましたが、札幌や福岡では月と土星がずれていて見られませんでした。

今日の月はほぼ上弦（半月）で、土星は「月の影側」から入ったので、双眼鏡でもよく見えました。恒星食では月の縁に「一瞬で」隠れますが、惑星食の場合見た目の大きさがあるので、「隠れ始め」から「隠れ終わり」まで、少し時間がかかります。双眼鏡で見ると、土星がだんだん暗くなって、やがて消える様子がわかりました。写真は土星が月に完全に隠される数秒前のものです。

(2024年12月8日 18:19 / 文京区小石川)

